

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年7月28日(2011.7.28)

【公表番号】特表2003-525988(P2003-525988A)

【公表日】平成15年9月2日(2003.9.2)

【出願番号】特願2001-565793(P2001-565793)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 J 3/22 (2006.01)

C 0 8 J 5/18 (2006.01)

C 0 8 K 5/101 (2006.01)

C 0 8 L 1/02 (2006.01)

C 0 8 L 3/02 (2006.01)

C 0 8 L 67/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/16 (2006.01)

C 0 9 D 101/02 (2006.01)

C 0 9 D 103/02 (2006.01)

C 0 9 D 167/02 (2006.01)

C 0 9 D 167/03 (2006.01)

C 0 9 D 171/02 (2006.01)

C 0 9 D 173/00 (2006.01)

C 0 9 D 175/04 (2006.01)

C 0 9 D 177/06 (2006.01)

C 0 9 D 179/02 (2006.01)

C 0 9 D 179/04 (2006.01)

C 0 9 D 189/00 (2006.01)

C 0 9 D 191/06 (2006.01)

C 0 9 D 201/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 101/00 Z B P

C 0 8 J 3/22 C F D

C 0 8 J 5/18

C 0 8 K 5/101

C 0 8 L 1/02

C 0 8 L 3/02

C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 101/16

C 0 9 D 101/02

C 0 9 D 103/02

C 0 9 D 167/02

C 0 9 D 167/03

C 0 9 D 171/02

C 0 9 D 173/00

C 0 9 D 175/04

C 0 9 D 177/06

C 0 9 D 179/02

C 0 9 D 179/04 Z

C 0 9 D 189/00

C 0 9 D 191/06

C 0 9 D 201/00

## 【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年6月3日(2011.6.3)

## 【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 蜜ろうまたはモンタンエステルワックスまたはこれらの混合物を含有するポリマー組成物(Q)から成るフィルムまたはコーティングの水蒸気透過性を減少する方法において、第一工程で、Z<sub>1</sub>)少なくとも1種の部分芳香族ポリエステル40~98.5質量%、Z<sub>2</sub>)相溶化剤としてのデンプンまたはセルロースまたはこれらの混合物0.5~20質量%、Z<sub>3</sub>)蜜ろうまたはモンタンエステルワックスまたはこれらの混合物1~20質量%およびZ<sub>4</sub>)少なくとも1種の添加剤0~20質量%(この場合、質量%はZの全質量に対する)を含有する組成物(Z)を製造し、かつ第二工程で、組成物Zを、Qの基礎となるポリマーと合することを特徴とする、蜜ろうまたはモンタンエステルワックスまたはこれらの混合物を含有するポリマー組成物(Q)から成るフィルムまたはコーティングの水蒸気透過性を減少する方法。

【請求項2】 Zは、Z<sub>2</sub>とZ<sub>3</sub>を混合し、かつこの混合物をZ<sub>1</sub>と合することにより製造される、請求項1に記載の方法。

【請求項3】 Zの全質量に対して相溶化剤Z<sub>2</sub> 1~15質量%を使用する、請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】 Z<sub>1</sub>)少なくとも1種の部分芳香族ポリエステル40~98.5質量%、Z<sub>2</sub>)相溶化剤としてのデンプンまたはセルロースまたはこれらの混合物0.5~20質量%、Z<sub>3</sub>)蜜ろうまたはモンタンエステルワックスまたはこれらの混合物1~20質量%およびZ<sub>4</sub>)少なくとも1種の添加剤0~20質量%(この場合、質量%はZの全体の質量に対する)を含有する組成物(Z)を、Qの基礎となるポリマーと合することにより、蜜ろうまたはモンタンエステルワックスまたはこれらの混合物を含有するポリマー組成物(Q)から得られるフィルムまたはコーティング。

【請求項5】 16~57の水蒸気透過性[ASTM F 1249により測定された $g \cdot 100 \mu m \cdot m^{-2} \cdot d^{-1}$ ]を有する請求項4に記載のフィルムまたはコーティング。

【請求項6】 Z<sub>1</sub>)少なくとも1種の部分芳香族ポリエステル40~98.5質量%、  
Z<sub>2</sub>)デンプンまたはセルロースまたはこれらの混合物0.5~20質量%、  
Z<sub>3</sub>)蜜ろうまたはモンタンエステルワックスまたはこれらの混合物1~20質量%、および  
Z<sub>4</sub>)少なくとも1種の添加剤0~20質量%  
を含有する組成物。

【請求項7】 成分Z<sub>1</sub>として使用されるポリエステルが、主成分として、

A) a1)少なくとも1種の脂肪族または少なくとも1種の脂環式ジカルボン酸またはそのエステル形成誘導体またはこれらの混合物30~95mol%、

a2)少なくとも1種の芳香族ジカルボン酸またはそのエステル形成誘導体またはこれらの混合物5~70mol%、

a3)スルホネート基含有の化合物0~5mol%

から成る酸成分および

B) 少なくとも1種のC<sub>2</sub>~C<sub>12</sub>-アルカンジオールおよび少なくとも1種のC<sub>5</sub>~C<sub>10</sub>-シクロアルカンジオールまたはこれらの混合物から選択されるジオール成分を含有する、請求項6に記載の組成物。

【請求項 8】 プレミックスを製造するための請求項 6 または 7 に記載の組成物の使用。

【請求項 9】 フィルムまたはコーティングの水蒸気透過性を減少させるための請求項 6 または 7 に記載の組成物の使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

意外にも、蜜ろうまたはモンタンワックスまたはこれらの混合物をポリマー組成物中で使用することにより、これらにより製造されるフィルムまたはコーティングの水蒸気透過性が減少することが見出された。意外にも、相溶化剤としてのデンプンまたはセルロースは、ポリマーマトリックス中で、蜜ろうまたはモンタンエステルワックスまたはこれらの混合物を結合するために好適であることが見出され、その結果、設定された課題は、第一工程で、 $Z_1$ ) Qの基礎となるポリマー ( $Q_1$ ) と相溶性の少なくとも 1 種のポリマー 40 ~ 98.5 質量%、 $Z_2$ ) 相溶化剤としてのデンプンまたはセルロースまたはこれらの混合物 0.5 ~ 20 質量%、 $Z_3$ ) 蜜ろうまたはモンタンエステルワックスまたはこれらの混合物 1 ~ 20 質量% および  $Z_4$ ) 少なくとも 1 種の添加剤 0 ~ 20 質量% (この場合、質量% は Z の全質量に対する) を含有する組成物 (Z) を製造し、かつ第二工程で、組成物 Z を、Qの基礎となるポリマー ( $Q_1$ ) と合することによる、蜜ろうまたはモンタンエステルワックスまたはこれらの混合物を含有するポリマー組成物 (Q) から成るフィルムまたはコーティングの水蒸気透過性を減少する方法より達成されることも見出された。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0078

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0078】

本発明によれば、組成物 Z 中で成分  $Z_1$  として使用されるポリマーは、ポリマー組成物 Qの基礎となるポリマー  $Q_1$  と相溶性である。成分が混合可能であるかまたは一方のポリマーがもう一方のポリマー成分中に溶解する傾向にある場合には、2 つのポリマー成分は、一般的には相溶性であると解釈される (B. Vollmert, Grundriss der makromolekulen Chemie, 第 IV 巻、222 ページ、E. Vollmert Verlag 1979 参照)。相溶性は、例えば、溶解度パラメーター、光学的透明度、ガラス転移温度または分光器による方法におけるその違いを使用して、例えば NMR -、IR - または蛍光測定を使用するか、または曇り度測定もしくは散乱法を使用することにより決定することができる (例えば、L. A. Utracki "Polymer Alloys and Blends" 34 ~ 42 ページ、New York 1989 参照)。